

花き栽培技術

アスターの電照栽培

アスターはキク科の草花で、原産地は中国北部です。花の色は赤・桃・紫・黄・白色などで、花型も一重や八重咲きがあります。仏花やアレンジなど様々な用途があります。

露地栽培では、8月のお盆用切花として人気がありますが、夏の暑さにはあまり強くないので、中山間地域での栽培が適しています。今回は、暖地でも栽培できるハウス栽培（電照）について紹介します。

1 育苗

発芽適温は15～20℃で、排水性の良い育苗用土に播種し、覆土は薄くします。播種後に過湿になると発芽率が低下するので、播種直後のかん水には注意が必要です。播種後約1ヵ月で定植苗となります。

2 定植

土壌pHは6.0～6.5を目安とし、基肥は1アール当たりチッ素・リン酸・カリをそれぞれ1kg程度施用します。根は細いので、たい肥などを施用して、柔らかく排水の良い土にしておきます。

無摘心栽培の場合、株間12cm、4～6条植えにします。摘心栽培の場合は株間を20cm程度に広くします。



アスターはフザリウムによる立ち枯れ病が発生しやすいので、連作はしないように注意してください。

3 栽培管理

定植後、草丈が30～40cmになるまで、夜間3時間程度の電照をします。アレンジアスターでは、電照を行わないと切花長が短く咲いてしまいます。定植1ヵ月後に追肥を行い、ボリュームを確保します。無摘心栽培では定植後3～4ヵ月で開花します。害虫ではヨトウムシやハモグリバエなど、病気ではさび病や灰色かび病に注意します。

4 切花

アレンジメントアスターでは、花が数輪開花した後に切花をします。切花後に下葉が黄化しやすいので、下葉は多めに除去して出荷するようにしてください。（農業振興センター）